



駒岡小学校だより

11月号

『わ』が作った運動会

校長 松本 稔

昨年度の運動会が荒天のため平日開催になったことから、今年度は1か月前から天気予報との「にらめっこ」が始まりました。横浜市内で行われた小中学校では、毎週のように台風が近づき、実施の判断に苦慮する話を聞きつつ、本校の運動会が行われる10月20日が晴れることを祈る思いで迎えました。台風や秋雨前線による荒天で運動会が延期になることが避けられる見通しが、数日前からつきましたが、連合運動会が行われた時の暑さと急激な気温の低下による寒さを予想し、暑さ対策と寒さ対策を同時に考えなければならなかったことが例年にない状況でもありました。まずは、運動会が無事に予定通り行われたことがうれしい限りであります。その陰には、後援会をはじめとする地域の皆様、保護者（PTA）、駒っこクラブ（お父さんの会）の皆様によるご支援があったからこそのもものと感謝申し上げます。ありがとうございます。学校と地域、保護者（PTA）がまさに表題にあるように「わ」になった力が結集された運動会だったのではないのでしょうか。



今年の運動会のスローガン＜赤 白 共につなぎあおう 挑戦・団結・全力の「わ」＞が作った運動会であったと思っています。

運動会を盛り上げ、作り上げるのは駒岡小学校の子ども達自身であることは言うまでもないことですが、自分事として取り組むことができるように指導することは簡単なようで、とても難しいことでもあります。

一部の係や役目の子ども達が一生懸命になっても、周囲がその気持ちを汲み取って一緒に頑張ったり応援したりしなければ運動会は自分たちのものにならず、盛り上がることはありません。

各学年の短距離走の練習の段階から、友達を応援する声が聞かれました。運動会当日もこれから走る子も走り終わった子も、走っている友達への応援をしきりにしていました。団体競技でも同じような光景を目にすることができました。赤も白も気持ちがつながっている姿を見ることができました。

各学年の演技の練習の様子を見て感心したことは、子ども一人ひとりが自分の演技をより良いものにしようと課題意識をもって取り組んでいたことです。そして、その課題意識を友達同士が分かりあって、支えあい励ましあう姿があったことでした。それぞれの学年に応じた段階で、頑張って一つの演技を作り上げようと気持ちをつなげていた「わ」を感じました。

高学年が中心ではありますが、様々な係活動も自分の係だけではなく、ほかの係との連携を考えた活動が見られ、やはり「わ」を見ることができました。

毎年行われる運動会の後には、我々教職員の間でも、振り返りをし、反省点を出し合って次年度の計画に生かせるようにしています。プログラムの進行が遅れ終了時刻が遅くなることと、運動会の様々な用具の収納場所が不明になってしまうことが課題でした。プログラム進行をスムーズにするために、決勝審判と得点係の連携を見直し短距離走終了後、得点集計を速やかにする工夫をし、退場までの時間短縮が実現できました。運動会で使用した用具関係も、各係の片づけと運動会を計画する体育部との連携で収納場所を把握できるよう工夫し来年度に備えることができるようになりました。手前みそになりますが教職員の「わ」も見られた運動会でもありました。

赤白の勝敗を分ける得点の差は少々大きかったことで、赤組の強さが際立ちましたが、応援賞の点数は、赤白共に200点台で、点差はわずか3点差であったということでした。赤白共につなぎあって応援しあうことができた結果であり、素晴らしい運動会であったと思います。

全校児童が挑戦し、団結し、全力を出した「わ」で作り上げた、駒岡小学校の子ども達による日本一の運動会であったと思っています。

今年度も手狭な中をご参観いただきご迷惑をおかけいたしました。敬老席も席が足りなくなり、急遽広げた次第です。児童数の増加が見込まれる中、会場設営についても大きく工夫を加えなければならない時期が近い将来に來ると予想されます。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。



最後に、つなぎあった『わ』で運動会を作った子ども達にもう一度拍手を贈ってあげてください。